

# わ げん あい ご 和 顔 愛 語

西法寺だより No.6 令和3年11月発行

ごあいさつ

## 浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の  
弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは  
本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声  
ありがとうといただき

この愚身をまかす このままで  
救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに  
生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます  
生かされていることに 感謝して

むさぼりいかりに 流されず  
穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い  
日々 精一杯 つとめます

色彩あふれる紅葉の美しさに心弾む季節となりました。

上記の「浄土真宗のみ教え」は、ご門主さまが本年4月の春の法要にて、仏恩  
報謝の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義が  
わかりやすく伝わるよう、その肝要をお示しになられたものです。  
(次ページに「浄土真宗のみ教え」についてのご親教(ご門主さま  
のご法話)を掲載しております。)

来る、2023(令和5)年には『親鸞聖人御誕生850年・立教  
開宗800年慶讃法要』をお迎えいたします。

親鸞聖人により、浄土真宗の教え(阿弥陀さまが必ず私たちを  
救ってくださる)が開かれたことを、ご一緒にお喜びいたしましょう。



## 「浄土真宗のみ教え」についてのご親教（ご門主さまのご法話）

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁あに遇わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証』を著して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきますよう。

さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常しよぎょうむじょうや諸法無我しよぼうむがという言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない私たちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死しやうろうびやうし」の「四苦しきく」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの煩惱ぼんのうを抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫ぼんのうぐそく ほんぶ」と言われました。

そして、阿弥陀如来は煩惱やみ しずの闇に沈む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、そのお慈悲のお心を「南無阿弥陀仏なま あみだぶつ」のお念仏に込めてはたらし続けてくださっています。

ご和讃に「罪業ざいごうもとよしかたちなし 妄想顛倒もうそうてんどうのなせるなり」「煩惱ぼだいたいむに・菩提体無二」とありますように、人間の分別ぶんべつがはたらし出す前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿おさで摂め取ってください。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗しんぶつ じねん じねん」（『浄土和讃』）、「信は願より生ずれば 念仏成仏自然なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃しやうだいねはんうたがはず」（『高僧和讃』）とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿弥陀仏」に込められた阿弥陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然の浄土じねん じねん」（『高僧和讃』）でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿弥陀如来に願われないのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心あんしんとともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いうやまに敬い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝ぶつおんほうしゃの道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちが聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

### ～ 浄土真宗のみ教え ～（前頁記載）

来る2023（令和5）年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださったことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきますよう。なお、2018（平成30）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会でき引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にさせていただきたいと願っております。

2021（令和3）年4月15日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

# 浄土真宗のおはなし

## ごう たん え 降 誕 会

しんらんしょうにん

親鸞聖人の誕生日をお祝いする法要や行事を降誕会と称します。

ごうたんえ

親鸞聖人は承安3年(1173)4月1日(旧暦)の<sup>じょうあん</sup>ご誕生と伝えられています。

きゅうれき

840年あまり前のことで、旧暦の4月1日は現在の暦に直すと5月21日に相当します。

こよみ

ひのありのり

父君は日野有範といい、藤原家の系統で京都の東南、宇治に近い日野(伏見区)の<sup>りょうゆ</sup>一帯を領有していた日野家に属し、母君は源氏の流れを汲み、吉光女と称されたといわれています。

うじ

ありのりきょう

こうたいごうぐう

だいしん

有範卿は、かつては皇太后宮のおそばに大進という官職でお仕えになっていましたが、諸事情により当時すでに引退し、日野または日野の南方の丘陵地、三室戸(宇治市)に隠棲されていたようです。

きゅうりゅうち

よめい

まつわかまる

ただやす

聖人のご幼名は松若丸との説が有名ですが、忠安だったとの説もあります。

有範卿ご夫妻にとってご長男で、聖人が数え年8歳頃に母君がお亡くなりになりました。おそらくこれが動機となり、数え年9歳(現在の小学校2年生)の春に出家得度されました。

しゅつげとくど

本願寺では聖人ご誕生の地を記念して文化年間(1804~1817)、日野

たんじょういん こんりゅう

の地に誕生院を建立しました。また、明治7年からは毎年5月21日に降誕会が執り行われるようになり、現在は午前中に御影堂で本願寺の関係学校の生徒たちによる音楽法要、続いて僧侶によるお勤めがあり、午後は御影堂で

ごえいどう

けんかく けんがくけんのかい みなみのうぶたい かんぜい  
献楽(雅楽献納会)、南能舞台では観世

りゅう しのぶがのうがく  
流の出演による祝賀能楽が催されます。

しゅうじつ

しゅくがのうがく

ちゃかい

さらに終日、参拝者を対象とした茶会なども行われ、本願寺の境内はもとより、

けいだい

門前町一円もなごやかな賑わいに包まれます。



## 行事報告

- 4月 常例法座…参拝者の感染症対策を行いお勤め
- 5月 永代経法要…参拝なし／法要動画配信
- 6月 常例法座…参拝者の感染症対策を行いお勤め
- 7月 常例法座…参拝者の感染症対策を行いお勤め
- 8月 盂蘭盆会…参拝なし／住職のみでお勤め
- 9月 秋季彼岸会…参拝なし／住職のみでお勤め

## 西法寺今後の予定

- ◆ 報恩講法要…11月12日(金) 午後7時より  
「正信念仏偈作法」「雅楽演奏会」  
(Facebookにて動画配信予定)  
11月13日(土) 午前10時30分より  
「正信念仏偈(行譜)・和讃」  
午後1時30分より  
「読経作法」「ご法話」  
\*例年より短縮してお勤めいたします。どうぞご参拝ください。
- ◆ 西法寺もちつき…中 止
- ◆ 除夜の鐘…12月31日(金) 午後11時45分より除夜の鐘開始  
除夜の鐘終了後、元旦会  
「正信念仏偈(行譜)・和讃」

状況により予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。  
変更につきましてはホームページ・SNS等にてお知らせいたします。

## 臥龍山 西法寺

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇110  
TEL 079-254-3777 FAX 079-254-4588  
<https://saihouji.lsv.jp/>

